

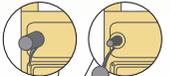
あれっ?
ガスが出ない!

そんなときは…

ガスメーターをご確認ください

- ガスメーター(マイコンメーター)は、ガス漏れや震度5相当以上の地震を感知した場合等において、自動的にガスを止め、ガスメーターの表示ランプが赤く点滅します。
- ガス漏れの疑いもありますので、ガス臭くないか十分確認してください。
- ガス臭い場合は、ガス事業者へご連絡ください。
- ガス臭くない場合は、以下の手順に従って操作いただければ、ガスの供給を再開できます。

キャップ 復帰ボタン



1 ガスコンロ・暖房・お湯すべてのガス機器を止める。(ガスメーターの元栓(メーターガス栓)では止めない)



2 メーターガス栓が開いていることを確認してください。復帰ボタンのキャップを左に回して外す。(キャップが無いタイプもあります。)



3 復帰ボタンを奥までしっかり押し、すぐ手を離す。(ボタンは元に戻り、赤ランプは再び点滅。)(キャップを元に戻す。)



4 ガスを使わず(お湯も出さないでください。)、約**3分**待つ。(ガスメーターがガス漏れがないかどうかを確認しています。)**3分**経過後に再度ガスメーターの表示ランプを確認し、点滅が消えていればガスが使えます。

メーター 表示ランプ
ガス栓 (点滅)
メーターガス栓
(このタイプもあります)

マイコンメーターは、次のような場合にガスをシャ断します (赤ランプが点滅します)

- 地震 ●多量のガス漏れ ●ガスの圧力低下
- 機器の長時間使用(お湯の沸かしすぎや鍋が焦げるのを防止するものではありません。)

※3分経過後もガスが止まったままで赤ランプが点滅している場合は、ガス機器の止め忘れやガス漏れが考えられますので、もう一度ガス栓の閉め忘れやガス機器の止め忘れがないか確認してください。
※確認後に再度操作しても復帰しない場合は、ガス漏れの疑いがありますので、ガス事業者までご連絡ください。

ふだんからメーターの位置を確認してください



マンション・アパートの場合



一戸建ての場合

冬の入浴時には

ヒートショックに要注意!



入浴時の事故は冬の時期に多く発生します。

冬の家の中には、入浴時の事故の原因の一つである「急激な温度差」を引き起こす場所が増えます。

リビング、脱衣所、お風呂などの温度差を少なくし、なるべく適温に保って家中の「温度のバリアフリー化」をすることが危険の軽減に効果的です。入浴時前に、浴槽の蓋をあけておいたり、温度を高めにしてシャワーで浴槽にお湯を落とすなども、浴室を事前に温める効果があります。

さらに

我が家の
お風呂は
いつもあったか

浴室暖房乾燥機

浴室をガス温水式ならではのパワーでポカポカ快適に



寒い浴室と熱いお湯の温度差は体に大きな負担をかけます。そこで浴室を温めておくと安心です。浴室の扉も開放すれば脱衣室までポッカポカ。浴室を乾燥室に変えてしまう乾燥機能もついています。

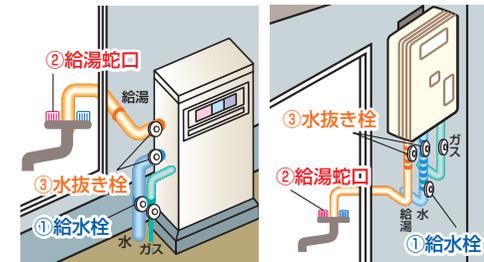
詳しくは新発田ガスへお問い合わせください。

凍結による給湯器の破損防止について



水抜き方式

1. 運転スイッチを「切」にする。(電源は抜かない)
2. ガス栓を閉める。
3. 給水栓①を閉める
4. ②お湯の蛇口(給湯蛇口)を開ける。
5. ③水抜き栓(2ヶ所)をはずす。



※水抜きした給湯器を次に使用するときには、水抜き方法の逆の順序で行う

通水方式

1. 運転スイッチを「切」にする。(電源は抜かない)
2. 給湯蛇口を開け通水する。

※通水量のめやす
エンピツの太さ程度



ポンプでお湯を循環させて湯はり、追い焚ができるタイプは



追焚配管が凍結する場合がありますので浴槽のお湯を抜かないでください。(電源は抜かない)

※上記の方法にて全ての配管ならびに器具の凍結や破損を防げるものではありません。